

2000年出土の木簡



(仙台)

宮城・市川橋遺跡

いちかわばし

所在地 宮城県多賀城市市川字鴻ノ池、浮島字高平

2 調査期間 一 第二六次調査 一九九九年（平11）四月～二〇〇〇年四月～二〇〇一年三月

3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター
4 調査担当者 千葉孝弥・鈴木孝行・武田健市・高橋圭藏・菊池 豊・相澤正信ほか

5 遺跡の種類 地方都市跡
6 遺跡の年代 奈良時代・平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西側から南面一帯にかけて広がる遺跡である。標高二～三mの自然堤防上に立地しており、奈良・平安時代の遺構・遺物が広い範囲に分布している。

二 第二七次調査

第一二六次調査地区及び南北大路の西側地区（A区西地区）、大路交

特に、八世紀後葉頃、多賀城の南正面に南北大路、それと交差する東西大路が建設され、城外の整備が始まつたことが窺われる。以後、それらを基準とした方格地割が段階的に施工され、九世紀には都市的空間が形成されるに至つたと考えられる。

一 第二六次調査

南北・東西大路の交差点地区（A区南地区）、その北側における南北大路とその周辺地区（A区北地区）、大路交差点の南東地区（C区）の三ヵ所を対象として調査を実施した。今回はA区について報告する。南地区では近代以降の河川による削平が著しく、交差点の東半分は破壊されていたが、両大路の路面と側溝を検出することができた。この地区では、九世紀から一〇世紀にかけて、南北大路の位置が大きく東側に移動していることを確認した。両大路とも一〇世紀後葉頃には廃絶している状況が見られた。木簡⁽¹⁾⁽²⁾は、南北大路の古い段階の西側溝から出土した。北地区では南北大路を約八〇mにわたつて平面的に調査し、路面や側溝に五時期の変遷を確認した。

また、大路を横断する河川の底面から全長一二m以上、幅約七mの橋跡を発見した。なお、この他に古代における最も新しい河川堆積土から、一〇世紀後葉頃の多量の土器や、黒漆塗壺鏡・横刀・人面墨書土器・ト骨などとともに木簡一点（解説中）が出土している。

差点の南側地区（D区）を対象とした。

二二七次調查

A区北地区では南北大路側溝に四時期の変遷があり、路幅が側溝

心々で一七mから二三mに変化していることを確認した。(1)(2)は三番目の時期の南北大路東側溝から、(3)は最古の時期の南北大路東側溝から出土した。一方、南地区では九世紀後半頃の水害の痕跡を確認した。(4)は南北大路西側溝から、(5)は南北大路北側溝から

堆積層から出土した。

また、東西大路から約四〇m北側において、東西方向の区画溝を発見した。ほぼ同位置で四時期の変遷があり、一番目に古いB期の埋土より木簡(8)が出土した。

D区については、今回その南端部を調査の対象とした。ほとんど
の部分が古墳時代から近代に至る河川の流路となつてゐる。そのう
ち、九世紀から一〇世紀にかけての堆積土から木簡(9)(10)が出土した

一、第一次調查

A区南北大路西侧沟

- (1) • [□野郷戸主物部速□□□]
• 「延暦十年九月四日」
(2) 「△高□□□□」

170×14×7 051

109×17×5 033

(1) 「火長人長」
〔武拾口カ〕
〔田部カ〕
 $(328) \times 33 \times 9$ 019
債仮入石

(2) 「○磐城団解 申進上兵士事合□人」
〔子立〕
「道」
支部竹万呂」
〔刑部〕
〔=〕

(3) 「削り残り」
「▽」
伊具郡小川里公廢□
〔=〕
 $657 \times 32 \times 7$ 011

(4) 「謹解」
〔申進上〕
米事
合□
春
合更替

A区南北大路西側溝

(142) \times (49) \times 20 065

(142) × (49) × 20 065

A区洪水堆積層

橋遺跡—城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報一一 (11000年)

同『多賀城市文化財調査報告書第六四集 市川橋遺跡—城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報一一』(11001年)

(千葉孝弥・鈴木孝行)

- (5) □□「麻綿五袴綿一要米一升」

□卷 子集

(150)×14×5 059

- (6) ×年五月卅日舍人家宿買物

卷奉

(126)×16×9 081

- (7) □人□「麻カ」

(74)×(21)×2 065

A区東西区画溝



二(9)

D区河川跡



二(3)

- (8) 「千葉郷私馬矢五斗

〔私カ〕
・「延暦十一年四月五日□

(104)×17×2 019

- (9) 「△伊少毅一石」

149×25×5 033

- (10) 解 申進人□

(103)×(28)×4 081

なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の平川南氏の
教示を得た。

9 関係文献

多賀城市教育委員会『多賀城市文化財調査報告書第五九集 市川

2000年出土の木簡

9